

福祉に関するアンケート
調査結果報告書
【概要版】

令和5年10月

羽曳野市

I 調査概要

1 調査概要

1.1 調査目的

本調査は、「第7期羽曳野市障害福祉計画・第3期羽曳野市障害児福祉計画」を策定するにあたり、当事者やそのご家族が抱える課題やサービスに対するニーズ等を把握し、円滑な計画策定に必要な基礎資料とすることを目的に実施しました。

1.2 調査方法と回収結果

	当事者対象調査	事業所対象調査	団体対象調査
調査対象	障害者手帳を所持している市民または自立支援医療を受給している市民	市内で障害福祉サービスを提供する事業所	市内で活動をしている当事者・家族団体や支援団体
対象者数	2,811件	60件	6件
調査方法	郵送による配布・回収 (WEB回答を併用)	郵送による配布・回収	
調査期間	令和5年9月4日～9月20日		
回収数	1,260件	42件	3件
回収率	44.8%	70.0%	50.0%

2 報告書の見方

2.1 報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

II 結果のまとめ

1 当事者対象調査

(1) 日中活動や就労について（18歳以上のみ）

【結果のまとめ】

○平日日中の過ごし方〔9（5）〕について、【身体】【精神】は「自宅で過ごしている」がそれぞれ32.9%、41.7%、【療育】は「福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」が41.0%と最も高くなっています。

▼9（5）あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。（単数回答）

	会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている	ボランティア活動など、収入を得ない仕事をしている	専業主婦（主夫）をしている	福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーションを受けている	自宅で過ごしている	入所している施設や病院等で過ごしている	大学、専門学校、職業訓練校などに通っている	高校（全日制、定時制、通信制）に通っている	その他	不明・無回答
全体（N=1,014）	24.2	0.7	7.8	11.2	1.8	0.8	31.9	5.3	1.1	0.5	3.0	11.8
身体（N=574）	26.1	0.7	8.9	4.9	2.1	1.4	32.9	5.9	0.5	0.2	3.7	12.7
療育（N=217）	20.3	0.0	1.4	41.0	0.5	0.0	12.9	7.8	2.3	1.8	1.8	10.1
精神（N=175）	18.3	1.7	4.0	11.4	2.3	0.0	41.7	4.6	0.6	0.0	4.0	11.4

○勤務形態〔9（6）〕について、「働いていない」を除くと、【身体】は「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が11.1%、【療育】【精神】は「福祉施設、作業所等で、いくらかの賃金をもらっている」がそれぞれ41.5%、16.0%と最も高くなっています。

▼9（6）あなたは、どのような勤務形態で働いていますか。（単数回答）

	正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない	正職員で短時間勤務などの障害者配慮がある	パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員	自営業、農林水産業など	福祉施設、作業所等で、いくらかの賃金をもらっている	働いていない	その他	不明・無回答
全体（N=1,014）	8.8	2.3	12.3	4.1	12.4	49.0	2.3	8.8
身体（N=574）	11.1	2.1	9.2	5.7	5.7	54.2	2.1	9.8
療育（N=217）	3.7	4.1	15.7	0.0	41.5	25.3	1.8	7.8
精神（N=175）	2.3	2.9	12.6	2.3	16.0	53.1	2.3	8.6

○収入を得られる仕事に対する希望〔9（7）〕について、【身体】は「仕事はしたくない、または、できない」が47.6%、【療育】【精神】は「仕事をしたい（続けたい）」がそれぞれ56.2%、56.0%と最も高くなっています。

▼9（7）あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。（単数回答）

	仕事をしたい（続けたい）	仕事はしたくない、または、できない	不明・無回答
全体（N=1,014）	48.7	43.5	7.8
身体（N=574）	44.3	47.6	8.2
療育（N=217）	56.2	35.5	8.3
精神（N=175）	56.0	39.4	4.6

○職業訓練に対する希望〔9（8）〕について、【身体】【療育】【精神】いずれも「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」がそれぞれ62.0%、48.4%、50.3%と最も高くなっています。なお、【精神】の場合に「職業訓練を受けたい」が26.9%とほかの場合と比べて高くなっています。

▼9（8）収入を得る仕事をするために、職業訓練などを受けたいと思いますか。（単数回答）

	すでに職業訓練を受けている	職業訓練を受けた	職業訓練を受けたくない、受ける必要はない	不明・無回答
全体（N=1,014）	5.2	16.5	58.3	20.0
身体（N=574）	3.1	12.5	62.0	22.3
療育（N=217）	10.6	19.4	48.4	21.7
精神（N=175）	9.1	26.9	50.3	13.7

○障害のある人の就労支援〔9（9）〕について、【身体】【療育】【精神】いずれも「職場の上司や同僚に障害の理解があること」がそれぞれ37.5%、52.1%、56.0%と最も高くなっていますが、次いで高いのは【身体】【精神】で「短時間勤務や勤務日数等の配慮」がそれぞれ26.1%、44.0%、【療育】で「仕事についての職場外での相談対応、支援」が26.7%となっています。

▼9（9）あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

	通勤手段の確保	勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	短時間勤務や勤務日数等の配慮	在宅勤務の拡充	職場の上司や同僚に障害の理解があること	職場で介助や援助等が受けられること	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携（ジョブコーチなど）	企業ニーズに合った就労訓練（能力向上のための取り組み）	仕事についての職場外での相談対応、支援	ご家族の理解、協力	その他	不明・無回答
全体（N=1,014）	24.5	17.1	29.0	20.2	43.9	15.9	15.7	12.7	20.8	24.0	7.3	24.4
身体（N=574）	25.3	22.1	26.1	21.1	37.5	15.5	10.8	8.2	15.5	23.2	6.8	28.6
療育（N=217）	22.6	11.5	20.3	11.5	52.1	24.0	25.8	16.1	26.7	24.0	6.9	22.1
精神（N=175）	26.3	11.4	44.0	19.4	56.0	14.3	22.9	18.3	33.7	24.6	12.6	16.0

【課題】

- ◆特に精神障害のある方において、就労に対する意向が強く見られます。雇用の促進を図るための就労移行支援をはじめ、ジョブコーチの充実、企業等の理解促進等が必要です。
- ◆就労促進に向けて、職場における理解促進が強く求められています。障害者の職場定着が促進されるよう、従業員に対する障害への理解促進や、当事者の特性に合わせた配慮の提供など、職場環境の整備について関係機関と協力して啓発を行っていく必要があります。

(2) 学校のこと、将来のことについて (18歳未満のみ)

【結果のまとめ】

○通学・通園先〔10(1)〕について、【全体】では「小学校の支援学級」が18.7%で最も高く、次いで「小学校の通常学級」が15.0%、「支援学校高等部」が10.3%となっています。

▼10(1) あなたが主に通っている学校・園などの種類はどれですか。(単数回答)

	児童発達支援センター	児童発達支援事業所	保育所	認定こども園	幼稚園	支援学校幼稚園	小学校の通常学級	小学校の支援学級	支援学校小学部
全体 (N=214)	5.6	2.3	3.3	4.7	1.9	0.0	15.0	18.7	7.0
身体 (N=28)	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	10.7	7.1
療育 (N=108)	4.6	0.9	1.9	1.9	0.9	0.0	3.7	20.4	13.0
精神 (N=22)	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	22.7	31.8	0.0
	中学校の通常学級	中学校の支援学級	支援学校中学部	高等学校・高等専門学校	支援学校高等部	専門学校・専修学校	その他	学校・園などには通っていない	不明・無回答
全体 (N=214)	6.1	4.2	7.5	3.7	10.3	1.4	0.9	0.5	7.0
身体 (N=28)	7.1	3.6	17.9	7.1	21.4	0.0	0.0	3.6	10.7
療育 (N=108)	0.9	6.5	14.8	1.9	19.4	2.8	0.0	0.0	6.5
精神 (N=22)	9.1	0.0	0.0	18.2	4.5	4.5	4.5	0.0	0.0

○現在の、休みの日や放課後の過ごし方〔10(2)〕について、【全体】では「家で過ごす」が87.9%で最も高く、次いで「放課後等デイサービスを利用する」が57.9%、「散歩や買い物」が33.6%となっています。

▼10(2) あなたは、休みの日や放課後にどんなことをしていますか。(複数回答)

	家で過ごす	友だちと遊ぶ	散歩や買い物	習いごと	趣味やスポーツ	留守家庭児童会(学童保育)	放課後等デイサービスを利用する	児童発達支援事業所を利用する	図書館や地域の施設を利用する	公園などで遊ぶ	その他	不明・無回答
全体 (N=214)	87.9	18.2	33.6	22.9	10.3	3.7	57.9	11.7	7.0	22.0	3.3	1.4
身体 (N=28)	78.6	10.7	14.3	14.3	7.1	0.0	60.7	7.1	0.0	10.7	7.1	3.6
療育 (N=108)	84.3	10.2	29.6	12.0	9.3	0.9	63.0	8.3	3.7	17.6	1.9	1.9
精神 (N=22)	90.9	13.6	18.2	22.7	13.6	0.0	54.5	4.5	4.5	4.5	0.0	0.0

○今後、休みの日や放課後にしたいこと〔10（3）〕について、【全体】では「友だちと遊びたい」が40.7%で最も高く、次いで「家ですごしたい」が37.4%、「放課後等デイサービスを利用したい」が26.2%となっています。

▼10（3）あなたは今後、休みの日や放課後にしたいことがありますか。（複数回答）

	家ですご したい	友だちと 遊びたい	散歩や買 い物に行 きたい	習いごと に通いた い	趣味やス ポーツを したい	留守家庭 児童会 （学童保 育）に通 いたい	放課後等 デイサー ビスを利用 したい	児童発達 支援事業 所を利用 したい	図書館や 地域の施 設を利用 したい	公園など で遊びた い	その他	特にな い	不明・無 回答
全体（N=214）	37.4	40.7	24.3	18.2	18.7	1.4	26.2	4.2	9.8	25.7	2.3	19.2	4.2
身体（N=28）	21.4	32.1	10.7	7.1	10.7	0.0	21.4	0.0	10.7	25.0	0.0	21.4	10.7
療育（N=108）	35.2	34.3	23.1	11.1	17.6	0.0	26.9	2.8	7.4	23.1	4.6	16.7	3.7
精神（N=22）	40.9	36.4	13.6	9.1	22.7	4.5	9.1	4.5	4.5	13.6	4.5	18.2	0.0

○回答者別でみると、「友だちと遊びたい」は【ご本人】が36.0%であるのに対し【ご本人のご家族】では41.3%、「家ですごしたい」は【ご本人】が44.0%であるのに対し【ご本人のご家族】では37.0%と若干の差がみられます。

▼10（3）あなたは今後、休みの日や放課後にしたいことがありますか。（複数回答、回答者別）

	家ですご したい	友だちと 遊びたい	散歩や買 い物に行 きたい	習いごと に通いた い	趣味やス ポーツを したい	留守家庭 児童会 （学童保 育）に通 いたい	放課後等 デイサー ビスを利用 したい	児童発達 支援事業 所を利用 したい	図書館や 地域の施 設を利用 したい	公園など で遊びた い	その他	特にな い	不明・無 回答
全体（N=214）	37.4	40.7	24.3	18.2	18.7	1.4	26.2	4.2	9.8	25.7	2.3	19.2	4.2
ご本人（N=25）	44.0	36.0	36.0	12.0	24.0	0.0	24.0	0.0	4.0	28.0	4.0	28.0	0.0
ご本人のご家族 （N=184）	37.0	41.3	22.3	19.6	17.4	1.6	26.1	4.9	10.9	26.1	2.2	17.9	4.9

○学校・園生活を送るうえでの問題点〔10（4）〕について、「特にない」を除くと、【全体】では「通園・通学が大変」「学習サポート体制が不十分」「先生や職員の理解が不十分」がそれぞれ22.4%で最も高くなっています。

▼10（4）あなたが学校・園生活を送る上での問題点は、次のどれですか。（複数回答）

	通園・通学が大変	学習サポート体制が不十分	学習・学校生活に必要な設備が不十分	校内・園内での介助が不十分	進路指導が不十分	福祉教育や学習カリキュラムなどが不十分	友だちができない
全体（N=214）	22.4	22.4	11.7	9.3	11.2	12.6	17.3
身体（N=28）	46.4	14.3	7.1	10.7	7.1	7.1	14.3
療育（N=108）	26.9	22.2	14.8	11.1	11.1	13.9	13.9
精神（N=22）	22.7	50.0	22.7	18.2	22.7	31.8	27.3
	先生や職員の理解が不十分	児童・生徒（またはその保護者）の理解が不十分	相談相手がいない	家族の同伴を求められる	その他	特にない	不明・無回答
全体（N=214）	22.4	15.4	11.2	4.7	5.1	29.4	4.2
身体（N=28）	10.7	10.7	14.3	17.9	3.6	17.9	10.7
療育（N=108）	14.8	12.0	11.1	9.3	6.5	27.8	4.6
精神（N=22）	40.9	40.9	18.2	0.0	4.5	13.6	0.0

○発達障害の診断の有無でみると、【診断あり（18歳未満）】では「児童・生徒（またはその保護者）の理解が不十分」が20.9%で、【全体】（15.4%）と比べて若干高くなっています。

▼10（4）あなたが学校・園生活を送る上での問題点は、次のどれですか。（複数回答、発達障害の有無別）

	通園・通学が大変	学習サポート体制が不十分	学習・学校生活に必要な設備が不十分	校内・園内での介助が不十分	進路指導が不十分	福祉教育や学習カリキュラムなどが不十分	友だちができない
全体（N=214）	22.4	22.4	11.7	9.3	11.2	12.6	17.3
発達障害：診断あり（18歳未満）（N=148）	20.3	26.4	12.8	11.5	12.8	15.5	19.6
	先生や職員の理解が不十分	児童・生徒（またはその保護者）の理解が不十分	相談相手がいない	家族の同伴を求められる	その他	特になし	不明・無回答
全体（N=214）	22.4	15.4	11.2	4.7	5.1	29.4	4.2
発達障害：診断あり（18歳未満）（N=148）	26.4	20.9	13.5	6.1	5.4	27.7	2.7

○障害の有無によらず一緒に学校や教室で教育を受けること〔10（6）〕について、【全体】では肯定的回答（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合算）が48.1%、否定的意見（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合算）が32.7%となっています。

▼10（6）あなたは、障害等があるかないかにかかわらず、できるだけ同じ学校や教室で教育を受ける方がよいという意見について、どう思いますか。（単数回答）

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	不明・無回答	肯定的回答	否定的回答
全体（N=214）	20.1	28.0	10.3	22.4	16.4	2.8	48.1	32.7
身体（N=28）	32.1	28.6	3.6	10.7	21.4	3.6	60.7	14.3
療育（N=108）	16.7	27.8	8.3	25.0	17.6	4.6	44.5	33.3
精神（N=22）	40.9	9.1	9.1	31.8	4.5	4.5	50.0	40.9

○回答者別でみると、【ご本人】の場合は肯定的回答が32.0%、否定的回答が48.0%であるのに対し【ご本人のご家族】では肯定的回答が50.0%、否定的回答が31.0%となっています。

▼10（6）あなたは、障害等があるかないかにかかわらず、できるだけ同じ学校や教室で教育を受ける方がよいという意見について、どう思いますか。（単数回答、回答者別）

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	わからな い	不明・無 回答	肯定的回 答	否定的回 答
全体（N=214）	20.1	28.0	10.3	22.4	16.4	2.8	48.1	32.7
ご本人（N=25）	20.0	12.0	8.0	40.0	20.0	0.0	32.0	48.0
ご本人のご家族 （N=184）	20.1	29.9	10.3	20.7	15.8	3.3	50.0	31.0

○将来就労するにあたって希望すること〔10（7）〕について、【全体】では「一般企業（会社など）の障害者雇用の拡大」が43.9%で最も高く、次いで「官公庁（市役所など）の障害者雇用の拡大」が30.8%、「障害の特性に応じた作業所などの充実」が27.6%となっています。

▼10（7）あなたが将来、就労（または日中の活動を）するにあたって、どのようなことを望みますか。（複数回答）

	一般企業 （会社な ど）の障 害者雇用 の拡大	官公庁 （市役所 など）の 障害者雇 用の拡大	職業訓練 機関※1 の整備	障害者就 業・生活 支援セン ター※2 の充実	障害の特 性に応じ た作業所 などの充 実	レクリ エーショ ン・学習 活動を行 う施設の 充実	入所施設 の充実	わからな い	その他	不明・無 回答
全体（N=214）	43.9	30.8	12.6	17.8	27.6	11.2	12.6	23.8	2.8	1.9
身体（N=28）	14.3	17.9	10.7	17.9	32.1	17.9	25.0	21.4	7.1	7.1
療育（N=108）	39.8	29.6	15.7	19.4	37.0	14.8	18.5	14.8	2.8	2.8
精神（N=22）	54.5	40.9	13.6	27.3	18.2	4.5	9.1	22.7	13.6	0.0

【課題】

- ◆子どもの特性に応じた教育を実施するために、対象となる子どもの特性を把握し、成長に応じた継続的な支援体制が求められます。
- ◆近年全国的に増加傾向にある発達障害を抱える子どもについても、学校において対応できる環境を整備することを検討しつつ、ご家族に対してペアレントトレーニングを提供できる体制づくりなど、福祉・教育の両分野で一体的に支援体制を整えていく必要があります。

(3) サービス利用について

【結果のまとめ】

○現在利用しているサービス〔3(4)〕について、【身体】は「居宅介護」(7.3%)や「生活介護」(5.5%)、【療育】は「放課後等デイサービス」(24.6%)や「相談支援」(18.9%)、【精神】は「就労継続支援(A型、B型)」(13.5%)や「相談支援」(12.0%)が高くなっています。

▼3(4) あなたは以下の福祉サービスを利用していますか。(複数回答)

	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	同行援護	行動援護	重度障害 者等包括 支援	施設入所 支援	短期入所 (ショー トステイ)	療養介護	生活介護	自立生活 援助	共同生活 援助(グ ループ ホーム)	自立訓練 (機能訓 練、生活 訓練)	就労移行 支援
全体(N=1,260)	5.5	0.8	1.3	2.9	0.4	3.2	3.9	0.5	6.1	1.7	4.8	2.5	2.1
身体(N=619)	7.3	1.1	1.3	1.1	0.2	4.2	4.2	0.8	5.5	1.8	1.8	3.4	0.8
療育(N=334)	5.1	0.9	3.6	9.6	0.9	5.4	10.2	0.0	16.5	1.2	14.1	2.1	5.1
精神(N=200)	6.5	0.5	1.0	1.5	0.0	2.0	2.5	0.0	2.5	2.5	4.5	3.0	5.0
	就労継続 支援(A 型、B 型)	就労定着 支援	相談支援	児童発達 支援	医療型児 童発達支 援	放課後等 デイサー ビス	居宅訪問 型児童発 達支援	保育所等 訪問支援	福祉型障 害児入所 施設	医療型障 害児入所 施設	利用して いない	不明・無 回答	
全体(N=1,260)	6.3	0.9	8.4	4.9	0.5	11.6	0.3	0.6	0.0	0.2	45.2	13.9	
身体(N=619)	3.4	0.5	4.0	1.0	0.5	3.4	0.2	0.0	0.0	0.2	54.1	18.9	
療育(N=334)	12.3	2.1	18.9	8.7	0.9	24.6	1.2	0.9	0.0	0.6	23.1	5.4	
精神(N=200)	13.5	3.0	12.0	1.5	0.5	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	43.0	10.0	

○今後のサービス利用希望〔3(5)〕について、【身体】は「居宅介護」(11.1%)や「生活介護」(9.5%)、【療育】は「放課後等デイサービス」(24.3%)や「相談支援」(21.3%)、【精神】は「相談支援」(18.0%)や「就労継続支援(A型、B型)」(15.5%)が高くなっています。

▼3(5) あなたは以下の福祉サービスを今後利用したいと思いますか。(複数回答)

	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	同行援護	行動援護	重度障害 者等包括 支援	施設入所 支援	短期入所 (ショー トステイ)	療養介護	生活介護	自立生活 援助	共同生活 援助(グ ループ ホーム)	自立訓練 (機能訓 練、生活 訓練)	就労移行 支援
全体(N=1,260)	8.3	1.3	3.3	4.8	1.3	4.8	7.9	2.1	8.3	3.9	6.3	4.8	4.8
身体(N=619)	11.1	2.1	4.4	3.1	1.6	6.6	8.9	3.9	9.5	3.2	3.6	5.2	2.6
療育(N=334)	6.0	2.1	7.8	12.6	1.5	8.1	16.5	0.6	16.5	3.3	18.6	5.1	8.4
精神(N=200)	6.5	1.0	3.0	2.5	0.5	1.5	4.5	1.0	4.5	9.5	7.0	6.5	9.0
	就労継続 支援(A 型、B 型)	就労定着 支援	相談支援	児童発達 支援	医療型児 童発達支 援	放課後等 デイサー ビス	居宅訪問 型児童発 達支援	保育所等 訪問支援	福祉型障 害児入所 施設	医療型障 害児入所 施設	その他	特にな い	不明・無 回答
全体(N=1,260)	8.9	3.8	13.3	4.8	1.3	12.3	0.4	1.0	0.6	0.2	1.8	40.5	9.0
身体(N=619)	5.3	2.3	8.1	0.5	0.5	2.9	0.0	0.2	0.0	0.2	1.9	48.0	11.6
療育(N=334)	16.5	6.0	21.3	7.8	3.6	24.3	1.5	1.8	1.5	0.6	0.9	18.9	6.3
精神(N=200)	15.5	6.5	18.0	2.0	1.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	40.5	5.5

○発達障害の診断の有無でみると、【診断あり(18歳未満)】では「放課後等デイサービス」が71.6%、【診断あり(18歳以上)】では「共同生活援助」(23.6%)や「就労継続支援(A型、B型)」(21.1%)が比較的高くなっています。

○親亡き後リスクの有無の有無でみると、【リスク該当】では就労継続支援(A型、B型)」(18.3%)や「短期入所」(11.3%)が比較的高くなっています。

▼3(5) あなたは以下の福祉サービスを今後利用したいと思いませんか。(複数回答、発達障害の有無・親亡き後リスク別)

	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	同行援護	行動援護	重度障害 者等包括 支援	施設入所 支援	短期入所 (ショー トステイ)	療養介護	生活介護	自立生活 援助	共同生活 援助(グ ループ ホーム)	自立訓練 (機能訓 練、生活 訓練)	就労移行 支援
全体(N=1,260)	8.3	1.3	3.3	4.8	1.3	4.8	7.9	2.1	8.3	3.9	6.3	4.8	4.8
発達障害:診断あり(18歳未満)(N=148)	1.4	0.7	2.7	2.7	0.0	2.0	10.1	0.0	1.4	1.4	0.7	4.7	8.8
発達障害:診断あり(18歳以上)(N=161)	8.1	1.2	9.3	16.8	1.9	9.9	15.5	0.0	19.3	6.8	23.6	5.0	11.2
親亡き後:リスク該当(N=71)	7.0	2.8	5.6	0.0	1.4	1.4	11.3	0.0	4.2	7.0	7.0	8.5	7.0
	就労継続 支援(A 型、B 型)	就労定着 支援	相談支援	児童発達 支援	医療型児 童発達支 援	放課後等 デイサー ビス	居宅訪問 型児童発 達支援	保育所等 訪問支援	福祉型障 害児入所 施設	医療型障 害児入所 施設	その他	特にな い	不明・無 回答
全体(N=1,260)	8.9	3.8	13.3	4.8	1.3	12.3	0.4	1.0	0.6	0.2	1.8	40.5	9.0
発達障害:診断あり(18歳未満)(N=148)	6.8	3.4	20.9	20.9	6.8	71.6	2.7	4.7	1.4	1.4	1.4	9.5	3.4
発達障害:診断あり(18歳以上)(N=161)	21.1	10.6	24.2	0.6	0.6	2.5	0.0	0.0	1.2	0.0	1.2	24.2	4.3
親亡き後:リスク該当(N=71)	18.3	5.6	15.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	38.0	12.7

※親亡き後リスク該当者:主な介助者が父親あるいは母親のみで、年齢が70歳以上の方を該当者として抽出している

○障害福祉サービス・障害児通所支援等以外に必要な支援〔3(6)〕について、「特にない」を除くと、【身体】では「外出のときに自動車で送迎してくれるサービス」が17.4%、【療育】【精神】では「ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス」がそれぞれ32.9%、36.5%と最も高くなっています。

▼3(6)(5) のサービス以外で、必要な支援はありますか。(複数回答)

	話し相手 や地域の 人の声か け、訪問	ちょっと した不安 や困りご とも相 談にのっ てくれる 身近な相 談サービ ス	作業やレ クリエー ションを 通じて自 立生活を 支援する 通所サー ビス	趣味やス ポーツな どの集ま り	食事の配 達サービ ス	外出のと きに自動 車で送迎 してくれ るサービ ス	買い物な ど外出に 付き添っ てくれる サービ ス	自宅に来 てくれる 散髪や理 美容サー ビス	その他	特にな い	不明・無 回答
全体(N=1,260)	6.2	24.4	7.3	11	7.1	15.3	7	6.7	2.8	42.9	13.3
身体(N=619)	4.2	15.3	4.7	6.8	6.9	17.4	6.1	7.4	2.3	46	17
療育(N=334)	6.9	32.9	12.3	18.3	6.3	19.8	10.5	9.9	3.6	34.1	11.7
精神(N=200)	13.5	36.5	9.5	14	11.5	14.5	9.5	3	7	34.5	7.5

○市の福祉サービスに対する満足度〔3（7）〕について、『満足』（「満足している」と「だいたい満足している」の合算）をみると、【身体】は15.3%、【療育】は24.0%、【精神】は21.0%となっています。

▼3（7）あなたは、羽曳野市の福祉サービスについて、全体としてどのように感じていますか。（単数回答）

	満足している	だいたい満足している	ふつう（特に不満はない）	少し不満である	大変不満である	わからない	不明・無回答	『満足』	『不満』
全体（N=1,260）	7.8	12.0	32.8	12.9	3.8	26.5	4.3	19.8	16.7
身体（N=619）	6.9	8.4	34.7	10.8	4.0	29.6	5.5	15.3	14.8
療育（N=334）	7.2	16.8	34.4	18.9	4.8	15.9	2.1	24.0	23.7
精神（N=200）	11.5	9.5	31.5	17.5	3.5	23.5	3.0	21.0	21.0

○将来の暮らしの希望〔7（1）〕について、【身体】は「配偶者（夫・妻）や子どもと暮らしたい」が41.2%、【療育】は「父母・祖父母・きょうだいと暮らしたい」が27.8%、【精神】は「一人で暮らしたい」が31.0%と最も高くなっています。なお、【療育】では「グループホームで暮らしたい」が19.2%で、【身体】（3.9%）や【精神】（7.0%）と比べて高くなっています。

▼7（1）あなたは将来どのように暮らしたいと思いますか。（単数回答）

	一人で暮らしたい	父母・祖父母・きょうだいと暮らしたい	配偶者（夫・妻）や子どもと暮らしたい	グループホームで暮らしたい	福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい	その他	不明・無回答
全体（N=1,260）	18.7	16.3	31.4	6.8	9.8	8.6	8.4
身体（N=619）	17.6	8.7	41.2	3.9	12.0	7.4	9.2
療育（N=334）	13.2	27.8	7.2	19.2	14.1	8.7	9.9
精神（N=200）	31.0	18.5	23.0	7.0	7.5	7.0	6.0

○地域生活に必要な支援〔7（2）〕について、【身体】【療育】【精神】いずれも「経済的な負担の軽減」がそれぞれ46.4%、60.5%、60.5%と最も高くなっています。なお、【身体】では「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること」(32.5%)、【療育】では「生活訓練等の充実」(25.4%)がほかの場合と比べて高くなっています。

▼7（2）地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。（複数回答）

	在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること	障害者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練等の充実	経済的な負担の軽減	困ったときなどに相談できる体制の充実	地域住民等の理解	コミュニケーションについての支援	その他	特になし	不明・無回答
全体 (N=1,260)	25.6	25.1	30.1	13.4	51.9	50.4	15.9	20.1	2.4	10.9	5.1
身体 (N=619)	32.5	25.2	31.7	7.9	46.4	43.3	8.4	10.2	1.9	11.1	6.0
療育 (N=334)	19.5	38.6	33.2	25.4	60.5	58.4	27.8	34.7	3.3	7.5	5.1
精神 (N=200)	26.5	32.0	34.0	17.0	60.5	59.0	20.5	30.0	3.5	8.5	2.5

【課題】

- ◆現在のサービス利用としては、日常生活を支えるサービスの利用が主となっていることが調査結果より伺えますが、前述の通り、特に精神障害のある方の就労への意向を踏まえると、自身の能力に応じた職場や働き方とマッチングできるサービスの充実や、地域での自立した生活を支えることのできるサービスが求められていることがうかがえます。
- ◆支援者の高齢化への対応、自立と親亡き後の不安の解消のため、短期入所など緊急時の受け入れ態勢や、経済的自立のための就労系サービスのニーズがあります。
- ◆地域での自立した生活を実現するために、経済的な問題を不安視する意見が多くみられるため、前項（雇用・就労について）でもふれたとおり、雇用環境の改善を通じた就労の促進を図ることが重要となります。
- ◆知的障害のある方や精神障害のある方が地域で安心して生活するために、在宅サービス提供体制の整備や相談支援体制の強化が求められています。また、コミュニケーションについての支援や、地域で暮らす方々の理解を得られる環境づくりも求められており、障害についての理解促進の取り組みも併せて重要となります。

2 事業所対象調査

(1) 現在のサービス提供状況と今後の増員計画

サービス	回答数	現在の利用状況		今後の増員予定				
		利用者数	羽曳野市の利用者	R5	R6	R7	R8	未定
居宅介護	13	76	59		34			
重度訪問介護	18	4	1		20			
同行援護	3	6	4					
行動援護	2	2	1					
重度障害者等包括支援	1	-	0					
生活介護	8	133	89				10	
自立訓練（機能訓練）	1	-	0					
自立訓練（生活訓練）	1	-	0					
宿泊型自立訓練	1	-	0					
就労移行支援	1	-	0					
就労継続支援（A型）	2	-	0					
就労継続支援（B型）	6	29	15					20
就労定着支援	1	-	0					
療養介護	1	-	0					
短期入所	4	12	6					
自立生活援助	1	-	0					
共同生活援助	9	104	55	11	4			
施設入所支援	2	38	20					
計画相談支援	7	308	175	6				
地域移行支援	4	1	0					
地域定着支援	5	23	19					
移動支援	4	28	9					
地域活動支援センター	3	114	25					
訪問入浴サービス	1	-	0					
日中一時支援	1	-	0					
児童発達支援	8	152	75	10				
医療型児童発達支援								
放課後等デイサービス	9	307	101					
保育所等訪問支援	2	8	5	10				
居宅訪問型児童発達支援								
障害児相談支援	3	106	62					

(2) 令和8年度までに新規参入を考えているサービス

サービス	回答件数
居宅介護	2
重度訪問介護	2
就労継続支援（A型）	2
就労継続支援（B型）	3
共同生活援助	3
移動支援	1
日中一時支援	1
児童発達支援	1
放課後等デイサービス	1
保育所等訪問支援	1
障害児相談支援	2

(3) 不足していると感じられるサービスと定員拡大・新規参入が進まない理由

不足しているサービス	回答件数	定員拡大や新規参入が進まない理由					
		利用需要の見込みが立てづらい	利用者の継続的な確保が困難	サービスの提供場所の確保が困難	職員の確保が困難	報酬単価が低く採算性に不安がある	わからない
居宅介護	11	3			11	8	
重度訪問介護	3	1			3	3	
同行援護	5				5	3	
行動援護	5				5	1	
自立訓練（生活訓練）	1		1		1		
就労移行支援	2		2		1		
就労継続支援（A型）	3				1	2	
就労継続支援（B型）	3	1	1		1	1	
療養介護	1				1		
短期入所	7	1		3	6		
自立生活援助	1	1	1				
共同生活援助	2			1	2	1	
施設入所支援	3			1	3	1	
計画相談支援	7				5	6	
移動支援	10	1	1		10	4	

不足しているサービス	回答 件数	定員拡大や新規参入が進まない理由					
		利用 需要の 見込み が立 てづ らい	利用 者の 継続 的 な 確 保 が 困 難	サ ー ビ ス 提 供 場 所 の 確 保 が 困 難	職 員 の 確 保 が 困 難	報 酬 単 価 が 低 く 採 算 性 に 不 安 が あ る	わ か ら な い
地域活動支援センター	1	1	1				
訪問入浴サービス	2						1
児童発達支援	1				1		
放課後等デイサービス	1				1		
保育所等訪問支援	1				1	1	
障害児相談支援	4				1	4	

▼参入が進まない理由：その他回答

サービス	理由
居宅介護	ヘルパーさんのなり手がいない
就労移行支援	福祉以外のスキルも必要
就労継続支援（A型）	制度が実情に合っていない
短期入所	定期的な利用を見込めない
	医療的ケアに対処できる事業所では看護師確保が難しい
施設入所支援	施設入所の希望は溢れかえっているが、施設サービスは拡大できないため
計画相談支援	業務負荷が著しい
	実際従事する仕事範囲が広い
	支援員になりたがらない
移動支援	ヘルパーさんがいない
訪問入浴サービス	独居に限定されているから
児童発達支援	職員の確保が困難。利用されている保護者からのお話しでは、事業所の数は多いが療育面やサービス等で良い事業所が少ないと聞いている。
放課後等デイサービス	職員の確保が困難。利用されている保護者からのお話しでは、事業所の数は多いが療育面やサービス等で良い事業所が少ないと聞いている。
障害児相談支援	実際従事する仕事範囲が広い
	管理者不足

(4) 障害のある人とその家族の地域生活を支援する福祉サービスのあり方や、障害のある人の福祉サービス等に対するニーズの動向などについて（自由回答）

現状や課題	今後の取組方策や方向性
<p>・ニーズとしていつでも気軽に相談できる窓口や場所、現状の相談支援体制では限界があり、人材確保の財源が必要。その中で、地域活動支援センターで行っている地域生活を支援する体制について、一定の評価と、評価基準の見直しを行う必要がある。</p>	
<p>・以前と比べて、通所系とグループホームは増加しましたが、質の担保や体制が脆弱な所、そもそも根本を理解していない事業所が多く、逆に課題や問題を誘発している事例があるなど充実しているとは言い難い。・居宅事業所の人材確保が難しく、新規のみならず既存ケースの調整が難しくなっている。・ニーズや課題を抽出出来ても、解決策の立案や対応、地域資源の創出までには至っていない。意見を吸い上げてフィードバックが出来ていない。・課題が棚上げになっており、何か問題が生じた時にその対応出来る支援者の個の力で、対応しており以前と変わっていない。</p>	<p>・ニーズや課題に対して、解決に向けて、短期集中的に検討・案などを立案出来るワーキングチームやプロジェクトチームなどの検討が必要と思われる。</p>
<p>・民間企業が参入し、グループホームは近年増えているが、反して触法や行動障害のある方の受け入れ先はない。・短期入所も限りがあり、利用できない場合も多い。・結果、自宅で過ごせなくなった方は精神科の病院に入院するしかないが、入院先も限られている。</p>	<p>・施設を増やすか、触法や行動障害のある方を受入れるグループホームへの補助を充実させる。</p>
<p>在宅で生活介護を利用している方の利用時間が短いので、朝夕のサービスがほしい。</p>	
<p>移動手段さえあれば利用できるのに…をあきらめる事が度々ある（就 A、就 B、短入、通院 etc）</p>	<p>タクシーとか気軽に使えるようになったらいいな。</p>
<p>男性ヘルパーの少なさ。</p>	
<p>母体が精神科病院であり、デイケアに参加して頂いている。</p>	
<p>・障害者の家族が高齢で面倒をみられなくなっ</p>	<p>・親が健在でも場合により居宅サービスを受け</p>

現状や課題	今後の取組方策や方向性
<p>た時の受け入れや居宅サービスの充実。・ひとり親状態になっている時の日常が維持できていない家庭への支援（母が長期入院、父が仕事で深夜帰宅で障害児が長時間子供だけの時間を過ごし、食事、睡眠、入浴などに不備が出る）。</p>	<p>られるようにする。・障害者と高齢介護の必要のある従護者が同施設に入れる環境作り。</p>
<p>要配慮の保護者の増加、保護者を理解した上で障がいのある児への説明できる機関が増える事も必要</p>	<p>障がい理解できる研修会を多くの社会資源の方へ実施する。</p>
<p>余暇のサービスとして移動支援を希望される利用者様が複数名おられるも、新規で受けて頂ける事業所がなく困っている。</p>	
<p>さまざまなサービスができることはいいことだが、その質を求められる段階にきているように感じる。例えば、、グループホームなど、新規サービスは増えているが、理解の乏しさを訴えられることもある。地域で生活を継続するために、居宅介護による自立支援は重要な役割を保っているが、さまざまな理由で受け皿がない。</p>	<p>サービスの質の向上と見極め。</p>
<p>大人（者）向けのサービスが少ない。選択肢が少ない。</p>	<p>政府の新しい仕組みの構築</p>
<p>・家族のレスパイトできる環境がない・相談しても解決の方法がわからなくなる（役所・学校・園など）・「大丈夫」と言われていたのに5年先のことが見えない</p>	<p>・ショートステイなどの設備・民間との連携・障害を低年齢の時に理解しサービスをニーズにあわせて考えることができるシステムや公共サービス</p>
<p>主たる介護者（両親）の高齢化のため親なき後の利用者の生活に不安がある。・有料の老人ホームに入所した方は2ヶ月ほどで退所した（理想と現実のケアに大きな差があったそうです）。</p>	<p>安心して地域で生活できるように G ホーム等の整備が必要。</p>
<p>訪問ヘルパーや施設職員など福祉の現場で働く人が激減しており、スタッフの定着が難しく、在宅で過ごすには、厳しい状況である。また、18才を超えるとかかりつけ医の小児科から転院、転科せねばならないケースもあり、往診医のみ関わりで救急搬送の際に20件断られた人もいる。地域で、在宅で生活するには改善す</p>	<p>特にどの現場においても人手不足の問題があり、人材確保が必要である。病院によっては、転院、往診医へ変わらざるをえなく、往診医も医療的ケア児を診たことないという人も多く、専門医でなくてもお願いせざるをえない状況と救急搬送の受け入れ体制など見直して欲しい。</p>

現状や課題	今後の取組方策や方向性
べきことが多いと思われる。	
ヘルパー不足	
正社員、常勤パートと時短アルバイトでは児童に関わる時間が異なるため、同じレベルのサービスを提供することが出来ていない。	研修を今まで以上に開催したり、職員同士の関わりを深められるような機会を設けて気軽に質問し合える関係性を築いていく。サービスの統一化を目指していきたい。
個々のニーズに応えられる様に多彩な取り組み支援が必要と思います。	しっかりとニーズを聞き取り支援内容を日々考えて取り組んでいく。
出来るだけ自宅で過ごしたい。	出来るだけ、希望にそった支援を行う。

【結果のまとめ】

- ◆今回調査の回答の範囲では、市内では自立訓練や就労継続支援（A型）や就労定着支援、自立生活援助など、当事者の自立を促進するためのサービスがないことがうかがえます。実際には市内だけでなく近隣自治体においてもサービスを利用していると考えられますが、地域生活移行を支える環境づくりに向け、自立に向けたサポートができる体制を整えていく必要があります。
- ◆事業所が不足していると考えられるサービスは様々ですが、特に居宅介護や短期入所、移動支援という回答が多くなっています。在宅生活を支えるサービスの不足が指摘されていますが、いずれのサービスでも職員確保の困難さや採算性に対する不安を指摘する意見が多くなっています。

3 団体対象調査

(1) 障害のある人や子どもが利用するサービスや支援について、不足していることや今後充実を望むことを教えてください。

- ・ 障害者に適した住居の確保、経済的な負担の軽減
- ・ 不登校・ひきこもりの子供が通い集える場
- ・ 学校への送迎
- ・ ご家族や身寄りのない方の保証人の確保

ガイドヘルパー、ホームヘルパーの担い手が不足しています。必要とする障害のある人たちに必要な時間や量など十分なヘルパーの派遣ができていません。支給決定されていなくても緊急時に利用できるショートサービス。余暇など安心して利用できる施設。スポーツセンター、プールなど。

- ・ ガイドヘルパー、相談支援事業所不足

(2) 羽曳野市では、障害のある人や子どものニーズに対応した障害福祉サービス等の提供は十分だと思えますか。十分でないと思う場合の原因は何だと思えますか。

- ・ 利用の手続きが難しい・制度の仕組みがわからない・相談する相手がいない

ガイドヘルパー、ホームヘルパーの担い手が不足。困難ケースなど対応できる、専門性の高い事業所が少ない。障害のある利用者や、家族への対応で丁寧に求められる時に対応できる事業所が少ない。障害支援区分により支給決定量がガイドラインで決められているため、当事者や相談員が必要としても支給決定されない時がある。

市の窓口でのアセスメント不足。窓口でもう少し保護者の気持ちをくみ取った対応。

(3) 障害のある人の就労や社会参加について、困っていることはありますか。また、どのような支援が必要だと思えますか。

困っていること	必要な支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツや習い事をする場が少ない。健常者の場はあるが、障害の理解や配慮のある場があれば、社会参加が進むと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場や日中活動の場に行くのに慣れるまで、移動支援の利用ができれば自力で通所できる力を伸ばすことができる。
<p>就労継続支援で働く工賃の増額。また、燃料費等の高騰による就労支援事業の経費の増加。</p>	<p>就労支援事業所への優先発注</p>

(4) 障害のある人や子どもに関する相談支援の体制は充実していると思いますか。相談支援事業の充実のためにどのような取り組みが必要だと思いますか。

相談支援体制の現状	必要な取り組み
・相談支援事業所は、現状電話や現場での対応に日々追われている。十分に相談がいきわたっておらず、足りない状態。	・基幹相談支援センターができることで、現在の委託相談支援所のゆとりができることで、より多くの支援に関わることができる。
形としてはできているが、相談体制のマンパワー不足を感じる。電話をしてもつながらない時が多々ある。	相談支援員を増やせる予算措置。